

一 (小計60点)

問一 (12点) 小学生の頃から人の目や不機嫌な人が怖くなり、人に嫌われないために、いつも笑顔でいることが習慣になったという事。

問二 (12点) 美緒に対し無理に答えを求めず優しく接してくれる祖父の温かさに身をゆだねて、自然とつらいことも話せたため安らいだ気持ちになっっている。

問三 (20点) 良い職人が作ったさじは軽くて美しく、食事をするときの口当たりが良い。また、良い職人が織った生地は軽くて温かく、着ると安心感がある。このように、良い職人の仕事は調和と均衡が取れていて、使う人にとって心地よいものであるということ。

問四 (16点) 自分の悪いところばかりを見つめてきた美緒に、自分の性分を知ってそれを活かせるようになってほしいと願い、まず気に入ったさじを選びそれで食事をさせることで、好きなものに目を向けるきっかけを作ろうと思っているから。

二 (小計30点)

問一 (12点) 風邪を引くことは、本来からだは季節の変わり目にシステムを更新して新しい季節に適応するために必要なことであるのに、薬で症状を抑えるとその目的が果たせなくなってしまうということ。

問二 (18点) 「あたま」は狭い価値観に基づきからだに無理を強制しようとする働きがあるため、疲れた時に「からだ」と「こころ」が「休みたい」と素直な要求を出すのを無視し、その人の「健康」を損わせると考えられる。

三 (小計10点)

- (1) 功績
- (2) 養成
- (3) 専門
- (4) 増刷
- (5) 晴耕雨読

【出典】

一 伊吹有喜『雲を紡ぐ』

二 稲葉俊郎『からだとこころの健康学』